

所員の研究, 試験および検査に関する発表を主とする「衛研例会」は, 昭和26年から原則として毎月第2火曜日, 第一会議室において開催されているが, 平成9年度に行った演題は次のとおりである。

第402回 (平成9年4月8日)

1. 尿素系農薬および分解・代謝産物のラット肝細胞におよぼす影響

薬 理 部 簾 内 桃 子
宮 島 敦 子

2. OBCAM (オピオイド結合性細胞接着分子) リコンビナント蛋白の調整および抗 OBCAM 抗体の性質

機 能 生 化 学 部 中 島 治
蜂 須 賀 暁 子

3. 大腸菌 *dinP* 遺伝子の発現によるフレームシフト型自然突然変異の増加

金 秀 良

第403回 (平成9年5月13日)

1. トランスジェニックマウス (Big Blue®) を用いた MeIQx の発がん機構の解析

変 異 遺 伝 部 鈴 木 孝 昌

2. MucAB, mutagenesis proteins

変 異 遺 伝 部 Petr Gruz

3. 遺伝子治療用ハイブリッドベクター-Fusogenic Liposome の標的細胞特異性について

生 物 薬 品 部 渡 部 明 子

4. 初代培養ラット海馬細胞で観察されたカルシウムウエーブの解析

生 物 薬 品 部 木 内 猛 仁
川 西 徹

5. ジフェニルエーテル系農薬のイヌ肝チトクローム P450 代謝酵素系におよぼす影響について

薬 理 部 宮 島 敦 子
簾 内 桃 子

6. Nitrofurazone のラットにおける精巣毒性の検討

病 理 部 正 田 俊 之
高 田 幸 一

第404回 (平成9年6月10日)

1. フモニシンのポストカラム蛍光誘導体化 HPLC 改良分析法および LC-MS による確認分析法について

食 品 部 穂 山 浩

2. モロヘイヤ中の強心作用成分の分析について

食 品 部 近 藤 一 成

3. 蛍光体支援糖質電気泳動 (FACE) による糖鎖含有タ

ンパク質の糖鎖解析への応用

生 物 薬 品 部 森 本 和 滋

4. ヒト好中球による活性酵素生成時における L-プラスチンのリン酸化の状態

生 物 薬 品 部 押 沢 正

5. シスプラチン-DNA 付加体のヒトミスマッチ修復による認識

変 異 遺 伝 部 山 田 雅 巳

6. 腎発がん剤臭素酸カリウムおよびパラジクロロベンゼン13週間投与によるラット腎病変の比較

毒 性 部 梅 村 隆 志

第405回 (平成9年7月8日)

1. 乳製品中のアルギン酸の定量分析法について

食 品 添 加 物 部 川 崎 洋 子

2. 非イオン性界面活性剤のポリオキシエチレン鎖のメチルパラベン, サリチル酸の皮膚透過あるいは赤血球の溶血性におよぼす影響

環 境 衛 生 化 学 部 徳 永 裕 司

3. フェナジン N-オキシドによる DNA 切断活性機構の解析

有 機 化 学 部 福 原 潔

4. C₆₀ の DNA 切断活性

有 機 化 学 部 山 越 葉 子

第406回 (平成9年9月9日)

1. コウジ酸のラットにおける甲状腺腫瘍発生メカニズム

病 理 部 小 野 寺 博 志

2. トランスジェニックマウスにおけるλC IIセレクションを利用した突然変異検出

変 異 遺 伝 部 王 雪

3. 遺伝子突然変異検出用トランスジェニックマウス *gpt* Δ の開発: エチルニトロソ尿素によって誘発される突然変異スペクトラム

変 異 遺 伝 部 増 村 健 一
能 美 健 彦

第407回 (平成9年10月14日)

1. d-Borneol の立体構造式について

生 薬 部 江 崎 勝 司

2. 3次元培養細胞 (Skin²™) に対する UVA の影響

環 境 衛 生 化 学 部 内 野 正

3. BOP 投与ハムスターにおけるフェネチルイソチオシアネートの発癌抑制機序

病 理 部 笠 原 健 一 郎
西 川 秋 佳

第408回 (平成9年11月11日)

1. パルス磁場勾配 NMR によるハイドロゲル中のインスリンの分子拡散の測定と放出速度との関係

薬品部 阿曾 幸男

2. 生あん中のシアン化合物の分析

食品部 山口 晃子
村山 三徳

3. NO ドナーを目的とした N-ニトロソ化合物の合成

有機化学部 丹野 雅幸
末 吉祥子

4. DEN と喫煙曝露で誘発されるハムスターの上気道腫瘍に対する β -カロチンの抑制作用

病理部 古川 文夫

第409回 (平成10年1月13日)

1. ラットにおけるトリブチルスズの着床阻害作用 (脱落膜反応に与える影響)

大阪支所生物薬品部 原 園 景

2. 天然添加物ウコン色素の成分分析と光安定性

食品添加物部 佐々木 史歩

3. 【特別演題】

エンドトキシン試験法について

大阪支所長 小川 義之

第1回 特別例会 (平成10年2月17日)

—内分泌障害性化学物質を取り巻く諸問題—

1. 関連ビデオ放映 NHK, BBC

2. 講演

生体系への影響：巻き貝に関する研究を中心に

国立環境研究所 堀口 敏広

3. 討論

第2回 特別例会 (平成10年3月3日)

講演

—内分泌障害性化学物質を取り巻く諸問題—

1. 内分泌障害性化学物質の科学的基盤

国立医薬品食品衛生研究所安全性生物試験研究センター
—毒性部長

井上 達

2. 化学物質の内分泌攪乱問題—その動向

(1)化学工業会の一般動向

住友化学 庄野 文章

(2)生物検定法を中心に

住友化学 松尾 昌季

3. 生物試験法について

日本獣医畜産大学 鈴木 勝士

4. 行政から

厚生省生活化学安全対策室 内田 康策

5. 討論

支 所 例 会

第154回 (平成9年6月24日)

1. 脂質エマルションの表面膜構造と血漿アポリポ蛋白質の結合性
薬品試験部 齋藤博幸
2. ラットにおけるトリブチルスズの投与日による発生毒性の変化
生物試験部 江馬 眞
3. トリブチルスズの妊娠初期投与によるラット母体及び胚に対する影響
生物試験部 原園 景
4. 化学物質の精子毒性
生物試験部 川島邦夫

第155回 (平成9年9月30日)

1. ヒアルロン酸架橋ゲルの医薬品による特異的収縮挙動とその徐放効果
薬品試験部 四方田 千佳子
2. リボフラビン5'-リン酸エステルナトリウムの光照射によるヒドロキシルラジカルの生成
食品試験部 石光 進
3. 食用タール色素の実態と諸外国との比較
食品試験部 三島郁子
4. 大阪支所ネットワークの概要
生物試験部 天野博夫

第156回 (平成9年10月28日)

1. 培養ラットシュワン細胞アルドース還元酵素 mRNA の発現量に及ぼす細胞環境の影響
薬品試験部 前川京子
2. 超臨界流体抽出(SFE)-HPLCによる穀類中残留農薬の一斉分析法
食品試験部 吉井公彦
3. マクロファージを用いた発熱性物質 *in vitro* バイオアクセスシステムの開発
生物試験部 中川 ゆかり

第157回 (平成9年12月24日)

1. 光分解性医薬品によるヒアルロン酸の分子量低下
薬品試験部 宮崎玉樹
2. ベロ毒素中毒症治療薬の開発動向
薬品試験部 谷本 剛
3. 静脈内投与時におけるラットの7種希土類元素の塩化物の毒性発現の差について
食品試験部 中村 優美子
4. ヒトメラノーマ細胞に対するインターロイキン1の増殖抑制作用の解析 (第2報)
生物試験部 村井敏美

第158回 (平成10年1月27日)

1. エンドトキシン試験法について
支 所 長 小川 義之
2. 日局「果糖」の赤外吸収スペクトルについて
薬品試験部 岡田敏史
3. 遺伝子組み替え食品について
食品試験部 柴田 正
4. フィリピン農薬モニタリング体制改善計画に参加して
食品試験部 外海泰秀
5. 多価不飽和脂肪酸 (PUFA) 中の脂肪族アルデヒドの分析
食品試験部 辻 澄子

 特別講演会

平成9年5月29日

Apc 遺伝子ノックアウトマウスの作成と腸管ポリープ
形成機構の研究：癌治療薬開発への応用

東京大学薬学部教授 武藤 誠

平成9年6月2日

Mechanisms and screening strategies for environmental
endocrine disruptors

EPA, USA Dr. Willam R. Kelce

平成9年6月6日

昆虫の生体防御機構から創薬を考える

東京大学薬学部教授 名取 俊二

平成9年6月25日

ストレス・免疫・老化そしてがん

東京医科歯科大学教授 広川 勝皇

平成9年8月7日

毒性試験の統計的データ解析における注意点

東京理科大学教授 吉村 功

平成9年9月16日

Inter-individual variation in drugmetabolizing enzymes:
cytochrome P450 and the glutathione-S-transferases

TNO, the Netherlands Dr. Peter J. van Bladeren

平成9年9月22日

シトクローム P450 における特異なヘム配位子構造の意
義：モデルからのアプローチ

東京大学薬学部助教授 樋口 恒彦

平成9年10月7日

Cell-cell communication as a biomarker for the under-
standing of genetic and environmental causes of human
diseases

Michigan, USA Dr. E. Trosko

平成9年10月20日

DNA サンプリングについて配慮すべきこと

京都大学教授 武部 啓

平成9年11月25日

生体の酸化ストレス応答における食細胞の役割

東京薬科大学助教授 別府 正敏

平成9年12月5日

タンパク質への各種標識体の導入とその分析

九州大学教授 財津 潔

平成9年12月18日

微小管機能制御物質に関する研究

元東京大学教授 岩崎 成夫

平成10年1月20日

タンパク質固定化充填剤による光学分割とその光学分割
機構

武庫川大学教授 萩中 淳

 支所特別講演会

平成9年12月5日

タンパク質への各種標識体の導入とその分析

九州大学薬学部教授 財津 潔

平成10年1月20日

タンパク質固定化充填剤による光学分割とその光学分割
機構

武庫川女子大学薬学部教授 萩中 淳